

第4回 関西文化学術研究都市の明日を考える懇談会 議事要旨

1. 開催日時

日時：平成17年2月3日（木）10:00～12:30

2. 出席委員（敬称略）

鈴木胖委員長、井村裕夫顧問、河本哲三、佐藤友美子、辻井昭雄、端信行、
畚野信義、村橋正武、山本裕美、和田元 計10名

3. 議事概要

事務局から、議事1. 報告事項（前回議事要旨、公共団体等との意見交換）について報告

事務局から、議事2. 審議事項について説明

各委員からの主な意見

1) 提言（案）について

- ・意見募集に際し、提言（案）の「はじめに」で、何が課題で、何を審議し、何を目指そうとしているのか、などを記述すべき。
- ・学研全体の一体化を促進し、学研都市全体としての総合力を強化することが重要。また、総合力については、特に学研都市が関西の中核を目指すとしても、まずは学研都市そのものが力をつけていかないとだめ。他が学研都市を中核と思ってくれないと仕方がない。一体化については3府県の一体化、施設間の一体化、研究と産業の連携、市町村を越えた学研都市の市民としての一体化の促進が必要。
- ・2-1、2-2について、2-1はハード中心、2-2はソフト中心になっている。都市運営、都市と里山の関わりといった課題が抜けている。
- ・これから都市に活力を与えるのはベンチャー企業である。学研都市でベンチャーが育つように、支援の仕組みを整えることが必要。
- ・3(2) で「大学間のネットワークによる産学官連携の強化」とあるが、大学間だけではなく、大学と研究所、社会と研究所といった連携が必要。また、リエゾンオフィス機能という表現は、わかりにくい。
- ・他都市との連携について、北京の中関村だけでなく、上海や西安等も考えたらよい。
- ・文化の新たな広がりを、産業文化だけでなく、生活文化や市民活動などを記述すべき。
- ・外国人を含む多様な市民交流から新たな文化が生まれる。

- ・多様性が重要。創造性を発揮する研究者、大学教授、芸人、アーティストなどに、学研内に住んでもらうことが重要。
- ・都市の運営に市民が参画できるようにすべき。
- ・これからの学研都市の取り組みの方向性について、推進する機関を明確にすべき。
- ・全体をまとめる「中心的なキャッチフレーズ」が必要。

2) 意見募集について
異議なし

その他（事務局から）

- ・今後のスケジュールについては次回詳しく説明する。本日の議論を早急にまとめ、各委員に確認後、意見募集に用いる提言（案）を作成する。次回（第5回懇談会）では、提言としてとりまとめていただく予定。